高Ｐ連会報

発行者　宮城県高等学校ＰＴＡ連合会
仙台市宮城野区幸町４－５－１
宮城県青年会館内
TEL・FAX　022－299－4621
E-mail：miyagikopren@ia2.itkeeper.ne.jp
印　刷　創文印刷出版株式会社
仙台市青葉区春日町８－34
TEL　022－222－0181
発行日　平成28年９月30日（金）

県連会長に山野公寛さん（仙台南高校会長）が就任

平成26年度から２年間、仙台向山高校が事務局校として県連のＰＴＡ活動を推進してきた。この間、仙台向山高校の野田会長と嶺岸会長が宮城県の会長を務めてこられた。平成28年度総会で県連事務局校が仙台南高校へと引き継がれ、仙台南高校の山野会長が県連会長になった。山野会長は平成28年度の東北地区高Ｐ連会長として、全国高Ｐ連の理事も務める。

これからのＰＴＡに期待すること

宮城県高等学校ＰＴＡ連合会前会長
嶺　岸　若　夫
（仙台向山高校前ＰＴＡ会長）

７月に開催された高校ＰＴＡ東北大会仙台大会に多くの方のご協力頂き、ありがとうございました。この大会を通じて、これからのＰＴＡ活動に役立つことがみえてきました。

仙台大会は仙台高校・仙台南高校・向山高校が中心となり準備を進めてきました。そこではお互いのＰＴＡがどんな活動をしているのかも話題になります。研修会や文化祭への関わり方など、とても参考になりました。こういう情報の交換会が県連レベルや支部単位で出来るといい。今までは、他の学校がどんな活動をしているのかがよく見えなかった。ＰＴＡフェスティバルや広報誌での紹介では限られたスペースなので、少ない情報量になってしまう。

ＰＴＡ会長たちが集まり、情報交換ができると、ＰＴＡフェスティバルや広報誌・ホームページがより充実してくると思います。

さらに、単位ＰＴＡの活動も充実してくる。

これからのＰＴＡ活動は、連携を図りながら、協力し合う関係が必要です。

「子どもたちの夢を応援する活動」、今回の仙台大会のスローガンです。

お互いの組織と組織が同じ目的に向かって、充実した活動になりますよう、期待しています。

「1000回のメールより、１回の握手を」

宮城県高等学校ＰＴＡ連合会会長
山　野　公　寛
（仙台南高ＰＴＡ会長）

人生には、三つの「坂」があるといいます。上り坂、下り坂、そして「まさか」。子どもが小中学生のときはＰＴＡ活動に無縁だった自分が、こうして会長就任のあいさつをさせていただいています。経験は浅く、力も足りません。役員の方々と力を合わせ、楽しく運営していきたいと思います。

早速、７月初めに東北地区高Ｐ連の大会が仙台市であり、東北各県から約1400人の方々に参加していただきました。キリンビール㈱仙台工場への研修視察、江陽グランドホテルでの情報交換会、仙台サンプラザでの本番と、素晴らしい大会になりました。各高校の皆さまには、さまざまな形で運営を支えていただきました。大会会長として御礼申し上げます。

「100回、1000回のメールよりも、１回の握手を」。これから１年間、あちこちでこの言葉を伝えていきたいと思います。スマホがコミュニケーションの主役になった時代です。だからこそ、手を握って気持ちを伝える感覚の大切さを、子どもたちに教えたい。それは自分たち大人同士も同じです。

ＰＴＡ活動とは何か。歌手のＤＡＩＧＯをまねて、自分なりに考えてみました。Ｐは保護者と教師の「パートナーシップ」。Ｔは机を囲んで話し合う意味で「テーブル」。Ａは行動の「アクション」。やっぱり「アクシュ」もいいな。そう独りごちています。

第65回 東北地区高P連仙台大会特集

7/7 研修視察

「被災地は、今」オプショナルバスツアー報告

仙台南高校　教諭　前野　周一

今回の研修視察は、行き先は同じですが、参加者多数のため、12時30分からの第１班（96名）と14時からの第２班（91名）とに、時間を分けて行われました。私は第２班に皆様をご案内する係として参加しました。

津波慰霊の碑

仙台駅を出発し、まず向かったのは、東日本大震災の爪痕が今なお残る仙台港近くの小学校でした。津波の被害により現在閉鎖されていました。この小学校のすぐ近くに観音様が設置されており、祈りを捧げる場となっていました。私たちも祈りを捧げつつ、次の場所へ移動しました。

次の研修場所は、キリンビール（株）仙台工場です。東日本大震災時には、津波に襲われました。震災から今日までの歩みを説明していただきながら、ビールができるまでの工程を女性のガイドさんに丁寧に案内していただきました。その後、皆さんお待ちかねのビールの試飲コーナーです。「一番搾り」はもちろん、仙台工場でしか造っていない「仙台づくり」やプレミアムなビールも試飲でき、皆さん大満足な様子でした。

キリンビール仙台工場

研修視察案内スタッフ

キリンビール（株）仙台工場に別れを告げて、もう仙台駅に帰るだけとなりました。しかし、ここからバスガイドさんの震災当時の感動的なお話が始まったのです。バスガイドさんは、あの動き回るのが困難な状況にも関わらず、命の危険も顧みず、お孫さんを探すため、お孫さんが通っていた小学校に向かわれたお話です。眠る者など誰もいません。そこかしこですすり泣く声が聞こえてきました。バスを降りる際に、一人ひとり皆さんがガイドさんにお礼を言っていたのが、印象的でした。

津波で被災した小学校

7/7 情報交換会

「私達の暑い熱い夏」

佐藤よし子（仙台高校副会長）

１年前の青森大会の視察を懐かしく感じる。

大会の大きさに圧倒され、仙台大会を運営する…という責任の大きさを痛感する。

情報交換会担当と決まり、７日の夜が笑顔で終わらなければ、８日の大会成功はない…と想いを強くする。「おもてなし」の心を大切に、アトラクションの順番等、細部までの気配りに知恵を絞る。特に席決めは、困難を要した。時間との戦い。全ては、参加してくれる皆さんの笑顔のため。大会成功のため。

情報交換会当日、伊達武将隊の皆さんと一緒に、参加者を出迎えた。「ようこそ、仙台へ！」と場が和む。オープニングは、宮城大学サークル・娘すずめ。仙台大会の幕開けにふさわしい、華やかなすずめ踊りの披露。何よりも、かわいい笑顔に癒される。宴の中盤は伊達武将隊の演舞。会場を練り歩いての圧巻の演舞は、会場をさらに盛り上げた。大会成功の狼煙を上げた握り拳に、力が入る。宴の締めは、青空応援団。体いっぱいに応援してくれたエールが、心に響く。お見送りでは、多くの皆さんが笑顔で、握手やハイタッチをしてくれた。本当に嬉しくて、明日の大会成功を確信。頑張ってきてよかった。

伊達武将隊とともにお出迎え

最後に、多くの皆さんのご協力があり、成功できたこと。深く感謝致します。そして、司会という大役を任され、司会進行が無事終えられたことは、私の大きな財産となりました。

私に力をくれた多くの皆さんに感謝致します。

熱い夏をありがとう！

宮城大学「娘すずめ」の皆さん

伊達武将隊演舞

青空応援団による力強いエール

7/8 本大会

7月８日開会式

７月８日受付風景

スタッフ記念写真

宮城県農業高校和太鼓部演奏

宮城県高P連加盟81校の力を結集！ ～仙台大会を振り返って～

大会実行委員長　豊嶋　修（仙台高校会長）

豊嶋大会実行委員長あいさつ

あの暑い熱い夏、仙台七夕を一か月後に控える、「七夕さま」の７月７日（木）～８日（金）の２日間にわたり開催された第65回東北地区高等学校ＰＴＡ連合会仙台大会は、東北各県より1,400余名の会員の皆さまをお迎えし、盛会のうちに終えることができました。

各地よりご参加いただいた会員の皆さま、とりわけ宮城県高P連加盟単P81校の会員の皆さまにご協力いただき、大会を成功裏に終えることができ、大会実行委員会を代表して、厚く御礼申し上げます。

本大会は、「復興から創生へ　集え！伊達の地へ」～子どもたちの夢を応援するPTA活動 ～　をテーマに開催されました。

前日７日（木）の情報交換会に先立ち行われた研修視察「被災地は、今」に参加された187名の方々は、バスの車窓から見た沿岸部に今だに残る震災の爪あとを目の当たりにし、震災後の５年間に思いを馳せ、続いて訪れたキリンビール仙台工場においては当時の被災状況、操業再開に向けての取り組み等を視察し、復興から創生への足跡をそれぞれに感じられたことと思います。

参加者624名を得て江陽グランドホテルで開催された熱気あふれる情報交換会。軽妙な語り口の山野大会会長あいさつを皮切りに始まった宴。各地区からお集まりいただいた会員の皆さまは、七夕の夜に子どもたちの健やかな成長を願いつつ、それぞれ存分に語り、飲み、交流を持たれました。会全体を通して、大会テーマの韻を踏むかのごとく散りばめられた演出とおもてなし。会の企画運営を担われた関係各位に敬意を表します。

明けて８日（金）の大会。仙台サンプラザホールに参集の1,432名、前日の熱気もそのままに、宮農和太鼓部の「宮農復興太鼓」のオープニング。開会行事に引き続き行われた宮城教育大学教授 田

山野大会会長あいさつ

宮城県教育委員会
高橋教育長祝辞

仙台市教育委員会
堀田理事祝辞

受賞者代表謝辞
住吉治彦青森県連前会長

第４面に続く⇒

端健人先生の基調講演。あの日あの時、われわれの子どもたちのいのちがどのようにして守られたのか、そしてその後、われわれの子どもたちは復興や創生にどのような力を発揮したのか、数々のフィールドワークで得たデータや実例をもとに、わかりやすくご講演いただきました。

昼食後の研究協議発表。各県代表の発表テーマはそれぞれ多彩。しかしそこに共通するのは「子どもたちのために何ができるか？」「子どもたちを理解し応援するためには？」という課題に取り組む姿勢。それぞれの発表が、参加会員各位の今後の活動に大きく寄与することを期待いたします。

そして、みやぎ総文祭・南東北インターハイ2017の生徒PR、仙台南高校合唱部による復興ソング「わせねでや」の合唱。我々が応援する子どもたちのいきいきと輝く姿がそこにはありました。

このように大会２日間にわたり貫かれたテーマに沿った内容から、皆さまは「学び」「気づき」をお持ち帰りいただけましたでしょうか？当日、開会のことばの中で「なにか一つ、学びや気づきをお持ち帰りいただき、子どもたちを応援していただきたい」旨申し上げましたが、そういう方々が多ければ多いほど、参加人数の多寡や会場の熱気、雰囲気とは全く別次元での、仙台大会の「本当の成功」と言えるのではないでしょうか。

「子どもたちの夢を応援する」県高P連加盟81校のさらなる躍進を期待いたします。

最後に本大会開催にあたり、ご支援ご指導いただいたすべての関係者各位、PTA会員の皆さま、そして運営にご協力いただいた専門部会の皆さま、総務委員の皆さまに改めて心からの敬意と感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

研究協議発表　石巻高校阿部会長

2017南東北インターハイ生徒PR

みやぎ総文祭2017生徒PR

「仙台大会の夏。忘れられない夏」

北島　一浩（仙台南高校２学年委員長）

仙台大会の総務委員を仰せつかって１年余り。熱くて、中味の濃い夏が終わりました。

各部会に先立って組織された我々総務委員会の活動は、決して順風満帆ではありませんでした。仙台大会のスケールの大きさに、その準備が思うように進まない時期があったのです。けれども、細部に至るまで一切妥協せずに確認・協議を繰り返し、困難に直面したら「心に満月を」の合言葉を心に唱えて活動を進め、会議を重ねる度に一体感が増しました。

迎えた本番当日の朝、会場ホールに集まった関係者が円陣を組み、山野会長の掛け声で気合を入れた瞬間、みんなが一つになった気がします。タイムテーブル通りに次第は順調に進み、来場された多くの皆様が笑顔でお帰りになり、朝円陣を組んだ場所に再び集まりました。山野会長・豊島実行委員長の計らいで、一言ご挨拶させて頂く機会を頂戴しましたが、大会本番までの残り二ヶ月の苦しかった時期を思い出し、輪になった仲間の充実感・達成感に満ちた表情を見て、言葉が出ず、気付けば涙を流していました。この瞬間、仙台大会は、誰かのものではなく、一部の人達のものでもなく、携わった人全員のものなんだという事に気付きました。大人になり社会に出て、こんなに大きな催しに、こんなに多くの人が、こんなに真剣に取り組めた事は、私達が愛してやまない子ども達に胸を張って語れる事だと思います。かけがえのない仲間と忘れられない夏を残してくれた仙台大会に深く感謝しています。

宮城教育大学　田端教授の基調講演

「わせねでや」を歌う仙台南高校合唱部

おめでとうございます！

第65回東北地区高Ｐ連仙台大会受賞者（敬称略）

＜表彰状＞

豊嶋　　修（県連副会長・仙塩支部長・仙台市立仙台高校）
相原　正幸（県連副会長・仙南支部長・大河原商業高校）
三塚　　修（県連副会長・大崎支部長・涌谷高校）
須藤　幸枝（県連副会長・石巻支部長・石巻好文館高校）
渡邉　光夫（県連副会長・仙北支部長・一迫商業高校）
村上　佳市（県連副会長・本吉支部長・気仙沼高校）
三浦　　勇（県連事務局前書記・会計）

＜感謝状＞

嶺岸　若夫（県連前会長・仙台向山高校）
髙橋　誠一（前健全育成委員長・築館高校）
藤田　考一（前進路対策委員長・仙台東高校）
武田　政寛（前調査広報委員長・鹿島台商業高校）

広報紙コンクール受賞校

気仙沼高校（最優秀賞）
迫桜高校（優秀賞）　宮城野高校（優良賞）

表彰状代表受領
石巻好文館高校
須藤幸枝前会長

東北地区広報紙最優秀賞
気仙沼高校
村上佳市前会長

平成２８年度　新しい役員の皆さま

役職名	氏名	所属校
会長	山野公寛	仙台南
副会長	浅野純恵	仙台第三
〃	関内利宏	県農業
〃	佐々木勇也	加美農業
〃	星　憲	石巻好文館
〃	白鳥光治	築館
〃	松本　賢	気仙沼西
監事	相原正幸	大河原商
〃	大内かつ子	松山
〃	柳渕　亨	登米総合
理事（仙塩）	☆豊嶋　修	仙台
〃	☆石澤　元	宮城工業
〃	☆阿部哲也	宮城野
〃	田代昌延	宮城第一
〃	小島智美	仙台三桜
〃	岩谷幸雄	仙台青陵
〃	神野正雄	利府
理事（仙南）	☆今村幸栄	蔵王
〃	平間靖浩	伊具
〃	山上信彦	名取
理事（大崎）	☆大友勝昭	小牛田農林
〃	鈴木優幸	古川黎明
〃	角田珠子	鹿島台商業
理事（石巻）	☆及川　剛	石巻商業
〃	小野田典永	石巻工業
〃	阿部和美	東松島
理事（仙北）	☆岩渕昌隆	登米
〃	佐々木浩子	岩ヶ崎
〃	伊藤宏一	佐沼
理事（本吉）	☆佐藤正浩	志津川
〃	石川雅治	気仙沼
県連顧問	嶺岸若夫	前会長
〃	小田浩一	仙台南校長

☆印は常任理事

委員会	健全育成	進路対策	調査広報
仙塩支部	◎宮城野 阿部哲也	宮城工業 石澤　元	仙台第一 門澤俊夫
仙南支部	○名取 山上信彦	◎蔵王 今村幸栄	伊具 平間靖浩
大崎支部	鹿島台商業 角田珠子	○古川黎明 鈴木優幸	古川 赤間幸人
石巻支部	石巻市立桜坂 武山順子	石巻西 遠藤宏昭	◎石巻北 後藤常子
仙北支部	登米 岩渕昌隆	岩ヶ崎 佐々木浩子	○佐沼 伊藤宏一
本吉支部	志津川 佐藤正浩	本吉響 芳賀秀行	気仙沼向洋 菊田誠一

◎は委員長、○は副委員長

事務局長研修会担当校	加美農業

支部事務局長

仙塩	大場　仁	仙台第三
仙南	浅野伸一	県農業
大崎	阿部幸弘	加美農業
石巻	今野一幸	石巻好文館
仙北	熊谷武彦	築館
本吉	石墨安洋	気仙沼西

県連事務局

事務局長	小笠原朋之	専任
書記・会計	関谷芳朗	専任
事務局次長	柴崎　浩	仙台南
書記	内藤淳一	〃
〃	前野周一	〃

編／集／後／記　今回の会報は２～５面で東北大会の特集を組んだ。県連事務局校が６月の総会後に仙台向山高校から仙台南高校へ引き継がれた。７月に開催した東北地区高Ｐ連仙台大会は、この２校と大会実行委員長校の仙台高校が中心となり、仙塩支部29校を含む県内加盟81校が力を結集し、成功裏に終了した。もちろん東北各県から寄せられた「東北はひとつ」のかけ声が後押ししてくれたことも忘れてならない。何か事を起こし、やり抜くことによって体力がついてくる。この大会で得られたことを今後のＰＴＡ活動につなげていきたい。その第一は「感謝」という思いではないかとあらためて教えられた。

全国高Ｐ連大会千葉大会に宮城県から150名が参加

大会テーマ「再発見！愛」～今こそ信じよう愛の絆～のもと、８月25日（木）～26日（金）の両日にわたり、主会場となった幕張メッセに全国から一万人を越える参加者が集った。開会式では、千葉県知事　森田健作氏が往年の若さを彷彿とさせる語りで祝辞を述べられ、会場を一気に盛り上げた。仙台向山高校の山岸智子会長が第２分科会「進路指導とＰＴＡ」で発表し、宮城県参加者の３分の１を越える方々が応援団となって会場に駆けつけた。なお、涌谷高校が優良ＰＴＡ文部科学大臣表彰を受賞し、仙台向山高校と石巻好文館高校が団体表彰を、嶺岸若夫前県連会長と三浦勇前県連書記・会計が役員表彰を全国高Ｐ連会長から受賞した。

平成28年度優良ＰＴＡ文部科学大臣表彰受賞報告

涌谷高校　ＰＴＡ会長　村上　晃淳

第66回全国高等学校ＰＴＡ連合会大会千葉大会において、松野文部科学大臣より優良ＰＴＡ文部科学大臣表彰をいただいたことについて、涌谷高校のＰＴＡ活動が高く評価されたという喜びと、評価していただいた方々への深い感謝の念を抱きました。

表彰式の時、私はなぜか東日本大震災があった年の入学式を思い出していました。あの時、会場の体育館に入場してくる子どもたちの服装は、各中学校の制服のままでした。震災の影響で制服が間に合わなかったのです。それでも元気よく、明るく入場してくる子どもたちの姿を忘れることができません。私には子どもが４人います。一番目の子どもの入学式であり、ＰＴＡにはまだ携わっていませんでしたが、子どもたちのために何か力になれればという思いを持ちました。

あの東日本大震災から５年が過ぎ、２番目と３番目の子どもも涌谷高校に入学し、明るく高校生活を送ってきました。この間ＰＴＡ活動に携わり、今回受賞の機会を得ましたのも先生方、ＰＴＡ役員、保護者の皆さまのお力添えがあったればこそとの思いを強く持ちました。

子どもたちは宝でございます。必要があって生まれてきたのです。あの入学式の時に抱いた、子どもたちのために何か力になれればという思いを今後とも引き続き心に抱いて、私自身も子どもたちとともに頑張っていこうと思います。

門脇校長先生はじめ、ＰＴＡ担当の先生方そして皆さまに深く感謝申し上げます。

ありがとうございます。

全国高Ｐ連大会千葉大会に参加して

石巻好文館高校　ＰＴＡ会長　星　　憲

８月25日（木）千葉県千葉市の幕張メッセを会場に第66回全国高等学校ＰＴＡ連合会大会千葉大会が、「再発見！愛」をメインテーマに全国から１万人余りの保護者や教職員が参集し盛大に開催され、石巻好文館高校を代表して参加してきました。

開会式の席上では、宮城県高Ｐ連からのご推薦により、全国高等学校ＰＴＡ連合会会長表彰（団体）を受賞させていただきました。

全国大会での表彰は、石巻好文館高校となってからは初めての受賞であり、旧石巻女子高校時代に遡っても数十年ぶりの受賞となり、大変誇らしく感じております。

本校のＰＴＡ活動は、地道な活動が主となっておりますが、参加いただく保護者の負担軽減等を目指したサポーター制度の導入など、歴代ＰＴＡ会員の方々が創意工夫を加えながら、絶えることなく活動を継続してきた積み重ねを評価いただき、今日の受賞に結びついたものと考えております。

開会式の終了後は、各分科会に分かれてそれぞれのテーマに沿った事例発表を傾聴し、助言者からの意見と合わせて、有用な情報を得ることができました。

私自身は、今回初めて全国大会に参加しましたが、県フェスティバルや東北大会とは異なる会場規模や参集者の数に驚きを覚えつつも、同じような問題や悩みを抱える学校の関係者や先進的な取り組みを実行している学校の関係者と、有意義な言葉を交わす良い機会となり、今後に生かせるよき経験になったと感じています。

全国大会に参加して

仙台向山高校　ＰＴＡ会長　山岸　智子

残暑厳しい中、８月25日～26日に開催された第66回全国高等学校ＰＴＡ連合会大会千葉大会に参加しました。第２分科会「進路指導とＰＴＡ」において、発表しました。約1,400名の参加者の前で本校が取り組んできたＰＴＡ活動を発表できましたことは、本校ＰＴＡにとって幸せでした。

本校の進路指導「向陵プラン」は進路指導雑誌等で知名度は高く、今回は「向陵プラン」のアカデミックインターンシップに関連したＰＴＡ活動の研修旅行、進路講演会、共通報告会と、その他の活動として向陵祭（文化祭）、強歩大会、向陵だより（ＰＴＡ広報誌）等を発表し、“学校とともに歩むＰＴＡ活動”をアピールしました。また、助言の先生方からも、子供とともに進路実現をめざす取り組みとして高く評価されました。

第２分科会では本校の他に３校の事例発表があり、それぞれの学校が特色のある進路指導関連のＰＴＡ活動をしていました。大変参考になり、今後、家庭と学校とをよりよく連携する方法として少しずつ取り入れたいと思います。

最後になりましたが、全国大会参加に際し、県高Ｐ連からもご支援、励ましの言葉をいただきました。小笠原県連事務局長様をはじめ、仙台向山高校の先生方ならび前会長、他高校の役員の皆様、更に、千葉大会関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。